



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

会員総数 800 人
 医師 158 人
 コメディカル 642 人
【管理栄養士紹介登録数 44人】
 平成21年11月20日現在

《目次》

「開業してから」菅野一男先生……………Page 1
 研究会の実施報告……………Page 2
 研究会の実施報告……………Page 3
 研究会のお知らせ……………Page 3、4

開業してから

当会理事 かの内科 菅野一男

外来診療中に病気以外のことをできるだけ話すように心がけています。

そんな患者さんの一人に、私は最近Perri Comoが好きになったんだと言ったら、「先生はold jazzが好きなんだねー」と言われました。old jazzにどのような曲が入るのかは知りませんが・・・。

彼とは同じ世代で、どんな生き方が楽しいのかなとか、孫ができたらどーだろうとか（彼の娘さんが妊娠中でもうすぐ爺っちゃんになる予定）、Comoの曲の一節The book of life is brief. And once a page is read, all but life is dead. That is my belief. に共感したり、また時には、宗教に対する感じ方など話しています。

彼は浅田次郎好きで、文庫本を待ち時間によく読んでいます。たまに雑誌で読む随筆で浅田次郎がよく怒っている、そんな文章が好きだと私はいいますが、彼は、浅田次郎を読みながら涙するのがいいようです。

開業する前は結構自由にやっけていても、やはりそれなりの制限があったのですが、今では多少わがままに診療できるようになってきています。このわがままが私にとって貴重だと感じています。その他にも、航空会社のOBで年金が減るとぼやいている人、経済の動向を教えてくれる骨董屋のおやじさん、群馬の温泉に詳しい近所のお婆さん、どうしても痩せられないラーメン屋さんなど、多彩な患者さんたちであふれていて、飽きることのない外来が続いています。

糖尿病は息のながい診療になります。患者さんと自分の人生が重なりながらの診療になることを最近強く実感します。患者さんが毎日の生活で何を大事にしているかが分かれば、診療行為に深みができるようです。近藤先生や伊藤先生が経験してきた道を私も辿っているのかなーなどと思いつつ、今度の患者さんとはどんなことを話そうかと思案しています。

最近、咳で受診した、比較的元気な患者さんを武蔵野日赤に紹介したところ、入院となりました。厳しくなるかもしれないbook of lifeへのかかわりはこれまでどおり続きそうです。



第19回武蔵野糖尿病医療連携の会

平成21年10月17日(土) ザ・クレストホテル立川にて開催されました。

当会理事 企画担当世話人 東京都立府中病院内科 辻野 元祥



第19回武蔵野糖尿病医療連携の会は「糖尿病患者の肢切断を防ぐために」をテーマに、10月17日(土) ザ・クレストホテル立川にて開催されました。

演題1は「糖尿病神経障害をどう診断し治療するか」という演題で、糖尿病患者のしびれ診断の落とし穴などについて、辻野がお話をさせていただきました。

演題2は「日常診療で出来る糖尿病足病変の診断と管理」という演題で、かたやま内科クリニック院長 片山隆司先生より、足病変を悪化させないためのちょっとした工夫について実践的なお話をいただきました。



演題3は「フットケアの実際」ということで、東京都立府中病院内科外来主任 寺尾さゆり先生より、当研究会初めてのビデオカメラ撮影によるフットケア実演が行われました。患者モデルには共催のサノフィ・アベンティス社の若手社員にご協力をいただきました。会場にはフットケアに関心をお持ちの多くの看護師さんに混

じって、フットケア・プロジェクトの斉藤貴子さん、運動療法の小池日登美さんもいらしていただき、大いに盛り上がりました。

参加者は医師23名、コメディカル75名、計98名のご出席をいただき盛況の中無事閉会いたしました。次回は「糖尿病患者の困った事態」のテーマで、シックデイや低血糖の際の対応、その他、切羽詰まった場合の対応についての対処法を取り上げ、4月24日開催予定です。この研究会はありきたりのテキストブックでは飽き足らない皆様に実践に即したすぐに役立つ情報をお届けすることを目指しております。次回も多数の医師およびコメディカルの先生のご参加をお待ちしております。

第8回 TAMA生活習慣病フォーラム

平成21年10月24日(土)「調布市民文化会館 たづくり」において開講されました。

企画世話人 国領めいようクリニック 富永 伸徳

平成21年10月24日(土)に、調布市文化会館たづくりにて第8回TAMA生活習慣病フォーラムが開催されました。

第1部は、武蔵野赤十字病院院長、富田先生より「糖尿病の主要な合併症としての脳卒中と地域連携」という題で脳卒中の成因別分類、治療、予防、そして脳卒中治療のネットワーク

作りの必要性とご苦勞についてお話をして頂きました。

第2部は、長年糖尿病に罹患して、その果てに脳梗塞を発症して重度の後遺症を残してしまった症例を提示し、パネリストの先生方に入院前、入院中、退院前のそれぞれの問題点についてディスカッションしていただきました。脳卒中の予防には、生活習慣病の厳格な管理が必要であること、TIA等の予兆を見逃さないことが予防の上で重要であることを再認識し、梗塞発症後は、残された機能の中での生活の工夫が必要で、そのためには医師だけでなく、看護師、栄養士、薬剤師、ケアマネージャー、医療ソーシャルワーカー等がチームとなってサポートしなければならず、医療・介護・福祉の一体的提供が必要であると結論づけられ、会が終了しました。質問が相次ぎ、関心の高さがうかがえました。



第50回多摩北部医療センターとの糖尿病に関する診療連携の会

平成21年10月29日（月）「多摩北部医療センター」において開講されました。

10月19日（月）に多摩北部医療センターにおいて「第50回多摩北部医療センターとの糖尿病に関する診療連携の会」が開催されました。

今回の当番世話人は東久留米市・石橋クリニック・石橋幸滋先生がご担当されました。一演題目は、石橋クリニック・竹本暁先生より、「インスリン自己コントロールをしているI型糖尿病患者への対応」との演題でご講演頂きました。患者さんの病歴や臨床経過を中心にご講演頂き、先生方から様々なご意見が上がっていました。二演題目は、石橋クリニック・石橋幸滋先生より、「東久留米市医師会が行う特定保健指導（動機づけ支援）の実際」との演題でご講演頂きました。特定保健指導について、実際に行っている動機付け支援の方法や、その評価、今後の課題点などについて、先生方からさまざまなご意見が上がっていました。また、各演題において様々な職種から活発な意見交換が行われ、本会は盛況のうちに終了致しました。





研究会他のお知らせ

◆ 直接事業

◆ 間接事業

～日本糖尿病協会東京都支部（東京都糖尿病協会）公開講座～

第23回東糖協多摩ブロック糖尿病教室（お申し込みは不要です。）

テーマ：「日ごろの疑問を解決してみませんか？」

特別講演：糖尿病からの失明を回避するために

ぜひ聞きたい！あんな疑問？こんな疑問？コーナー

開催日：平成21年12月12日（土）14：00～16：00

場 所：北野市民センターホール（北野タウンビル8階）

（京王線 北野駅北口下車 徒歩1分）

会 費：無料

※詳しくは同封のチラシをご覧ください。

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位



◆ 第104回実践栄養指導勉強会

テーマ：基調講演「血糖降下剤の用い方ー現状とその問題点ー」

特別講演「糖尿病治療におけるインクレチン系薬剤の役割

ー膵β細胞機能保護ー」

開催日：平成21年12月15日（火）18：45～20：15

場 所：緑風荘病院併設グリーンボイス1Fダイルーム

（西武多摩湖線八坂駅下車徒歩1分）

会 費：実践栄養指導勉強会会員無料 非会員500円

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位



事務局からのお知らせ

◎事務局年末年始休業のお知らせ

平成21年12月26日（土）～平成21年1月3日（日）までお休みとさせていただきます。本年も会員の皆様には大変お世話になりました。来年もよろしくお願ひ申し上げます。

◎ご住所などに変更があった場合はお早めにご連絡下さい

住所や勤務先に変更があった場合は所定の変更届出書（※）にてお早めに事務局までご連絡ください。（※変更届出書は当会ホームページよりダウンロード、ご記入のうえFAXにてお送りください。）

事務局FAX番号：042-322-7478

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局

〒185-0012 国分寺市本町3-10-22 リエントラザ 402

TEL：042(322)7468 FAX：042(322)7478

http://www.nishitokyo-dm.net Email:w_tokyo_dm_net@ybb.ne.jp

